



# AUE News

2011年12月28日

第 31 号

編集・発行  
愛知教育大学広報部会  
TEL 0566-26-2738  
FAX 0566-26-2500



## 目次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(12月29日-1月15日)
- トピックス
  - ・ 第2回環境ミーティング
  - ・ 高浜市教育委員会と連携協定覚書締結式
  - ・ 塩田浩喜さん、鶴飼遥佳さんら学長表彰
  - ・ 第2回あかりアートの世界
  - ・ 愛知県内教育委員会と地域連携教育推進協議会
- ・ 交通安全講習会
- ・ 音楽科学内演奏会
- ・ 理科実験プレ教員セミナー
- お知らせ・報告・投稿
  - ・ 造形文化コースでお茶会
  - ・ 卒業生近藤友貴さん震災写真展示会
  - ・ 個人情報保護セミナー
  - ・ 催しもの案内

## 省エネニュース@愛教大

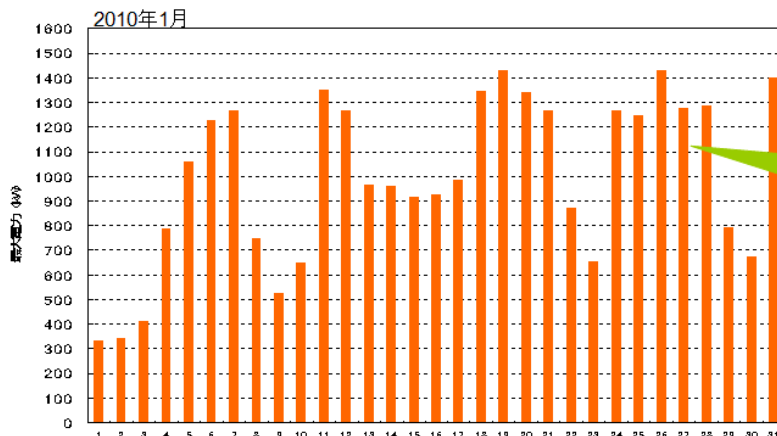
2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.13(作成は「省エネワーキンググループ」)です。冬の省エネのポイントを紹介しします。皆さん、引き続き、節電にご協力ください。

### NO13 ひざ掛け・厚着で省エネ

## 冬も節電が必要です



「電気ストーブ」より「ひざ掛け」「厚着」で省エネにご協力ください。



通常授業時(平日)  
最大電力(デマンド)値が  
上昇します!  
(特に13時~15時)

### ●冬期の「節電」ポイント

- ①冬期は、夏期と同じぐらい最大電力(デマンド)値が高くなります。特に13時~15時に最大電力のピークとなっています。
- ②室内温度管理「19℃」の徹底と「ひざ掛け」「厚着」を使用してください。



## 行事予定(12/29-1/14)

- 29日(木) 年末年始の休日(1月3日まで)  
1月4日(水) 年頭のあいさつ(11:00～ 第五会議室)  
          役員部局長会議(13:00～ 学長室)  
5日(木) 教務企画委員会(16:40～ 第二会議室)  
          学生支援委員会(16:40～ 第五会議室)  
6日(金) 教員人事委員会(16:40～ 第五会議室)  
10日(火) 役員部局長会議(13:00～ 学長室)  
11日(水) 代議員会(13:30～ 第五会議室)  
12日(木) 大学改革推進委員会(15:30～ 第三会議室)  
14日(土) 大学入試センター試験(15日まで)

## トピックス

### 第2回環境ミーティング(12/16)

本学の環境を考える「2011年度第2回環境ミーティング」が12月16日(金)午後零時25分から、第一共通棟自習室Aで開催された。



当日は、環境に関心のある教職員、学生ら、合わせて15人が参加、加藤正俊施設課副課長から、エコ大学リーグで本学が総合6位(全国166校中)であったこと及び緊急節電対策の中間報告として電気使用量目標-10%(前年比)に対して-6.24%(同、9月末まで)であったことの報告があり、その後保健環境センター長の菅沼教生教授(理科

教育)と同センター榎原洋子講師らから課題として挙げられた「環境活動」と「禁煙」について議論した。

エコ大学リーグでの評価内容について、学生から質問があり、エネルギー削減・CO<sub>2</sub>部門については全国トップだが、学生との協働・教育では低評価のため今後の課題であるとされた。全面禁煙については、近隣住民より、構外での喫煙が目には余るとの通報があったこと、さらにトイレ内で吸った形跡もあるとの学生からの苦情を受けたこと等の報告があり、再び構内分煙化を行ったらどうかとの意見が出された。



また学生の意見を広く聞く意味で、学務ネットの有効活用をしてはどうかと学生から意見もあり、それぞれ報告や課題が示された。

(施設課副課長 加藤正俊)

### 高浜市教育委員会と連携協定覚書締結式(12/16)

本学と高浜市教育委員会は、学校教育や生涯学習の課題解決と充実を図るための連携に関する覚書を12月16日(金)午後、高浜市役所で締結した。

本学と教育委員会との同覚書は、刈谷、知立、豊明、豊田、碧南の5市に続く6件目。これにより、刈谷市、知立市、安城市との包括協定を合わせると、碧海5市すべてと協定等を締結がしたことになる。

締結式には本学から松田正久学長、都築繁幸理事(学生・連携担当)、白石薫二理事(財務・施設担当)、一宮登特別学長補佐、教育創造開発機構運営課の職員、同市教育委員会から岸上善徳教育長、中村孝徳学校経営グループリーダー、梅田稔学校経営グループ主幹が、それぞれ出席。覚書の概要説明がされた後、松田学長と岸上教育長が協定書に署名



した。

岸上教育長は「今ほど精神的にも肉体的にもタフな教師が求められている時代はない。ポジティブで、打たれ強い教師、生徒、児童づくりができればありがたい。より実りのある連携になるよう、よろしくお願ひしたい」などとあいさつ。松田学長も「地域に存在感のある大学づくりを進めてきました。特に碧海地域の位置する西三河はものづくりが盛んで、外国人の子どもたちへ学習支援をしています。また、コミュニケーションと総合的な人間づくりに力を注いで質の高い教員養成を行い、地域の方に還元していきたい。これを機会に一層交流を深めていき、我々の知の貢献として高浜市のお役に立てればありがたい」などと連携への抱負を述べた。



今後、双方に窓口を設置し、必要な連絡調整を行いながら連携を進めることになる。

### 塩田浩喜さん、鵜飼遥佳さんら学長表彰(12/19)

学外のコンテストで優秀な成績を収め、本学の榮譽を著しく高めた学生への「学長表彰」が12月19日(月)午後、学長室で行われた。



表彰を受けたのは、11月にシンガポールで開かれた「第20回世界ラン会議」の学生ポスターセッション1stリボンを受賞した塩田浩喜さん(教育学研究科理科教育専攻・院2年)、12月に日本銀行本店で開かれた「第7回日銀グランプリ〜キャンパスからの提言〜」決勝で優秀賞に選ばれた前田宗誉さん(国際文化コース4年)鵜飼遥佳さん(同3年)村井望さん(同3年)の計4人。このうち、

前田さんは都合により欠席、村井さんもドイツ・ブライトブルク大学留学中のため欠席し、塩田さんと鵜飼さんが出席。役員や指導教員らが見守る中、2人は順番に松田正久学長から表彰状と記念品を受け取った。

塩田さんは学部4年から東南アジア原産のランのシンビジウムと、南米アンデス山脈原産のランのリカステの交配に取り組み、成功。その研究成果をまとめたポスターで受賞した経緯を説明し「花が咲くまでに3年かかりますから在学中に見ることはできませんが、来春からは教員になるのでこれまでの体験を生かして、理科の面白さを子どもたちに伝えていけたら」と抱負を語った。鵜飼さんは「今回私たち自身の経験やアンケート結果をもとに教育学部における金融教育についての提案をし、その提案が審査員の方々に届いて優秀賞をいただけてうれしく思っています。多くの方にアドバイスをいただき、ありがとうございました。これをきっかけに教育学部や子どもたちへの金融教育の発展につながっていくことを願っています」と笑顔で喜びと展望を述べた。



### 第2回あかりアートの世界(12/20-25)

さまざまな明かり作品の展覧会「第2回あかりアートの世界」が12月20日(火)~25日(日)、刈谷駅前商店街の「スペースAqua」で開催された。



本学と同商店会との共同事業「UNO セレクション」の第8弾で、昨年

に続いて宇納一公教授(美術教育)と彫刻研究室の学生が制作した電飾やオブジェ計13点を展示。林幹久さんの「オトシゴファイブ」は来年の

干支にちなんで5色のタツノオトシゴをF.R.P(透明樹脂)で形づくり、放射状に並べたユニークな作品。佐野奈津美さんの「羊」は、毛フェルトや綿が材料で、ほっこりとしたシルエットと優し







い明かりで心和ませる作品。タイトル「小部屋」の壺井杏里さんの作品は、青竹をなたで割って断面に和紙をはり、節ごとに違う優しい色合いで訪れた人の目を引いていた。飯田夏代さんの「Sweets Flower」は名前どおり、素材はキャンディー。トロリとしたガラス細工のような風合いに思わず見る人を笑顔に。他にも、陶彫、ペットボトルを材料にした作品や、ハチの巣状にストローを並べて映像を投影する作品など、どれも個性豊かな意欲作ばかり。いずれも、制作時間は2, 3週間。4年生は卒業制作と並行して臨み、「大変でしたが、楽しかった」と力作を前に笑顔を見せた。



23日(金)午前には、ワークショップ「キラキラ星をつくろう！」が開かれ、宇納教授と学生たちが講師となって、子どもたちが身近にある材料で明かりのオブジェ制作を楽しんだ。午後5時半からは本学のアカペラサークルのコンサートもあり、明かりアートとともに来場者を楽しませた。

### 愛知県内教育委員会との教育連携協議会(12/21)

本学と愛知県内の教育委員会が連携について話し合う「第10回愛知教育大学・愛知県内教育委員会地域教育連携推進協議会」が12月21日(水)午前10時から、名古屋市中区のKKRホテル名古屋で行われた。本学から都築繁幸理事(学生・連携担当)、白石薫二事務局長、中田敏夫学系長ら17人、教育関係機関からは愛知県、名古屋市、県総合教育センター、尾張、西三河の各教育委員会などの11人が、それぞれ出席した。



冒頭、都築理事が「地域から信頼される地域の教員養成系大学でありたい」とあいさつ。県教育委員会の岩間博学習教育部長が「愛知の教員養成を推進するアクションプランを作成しました。大学との連携強化を図っており、新たな展開をしていきたい。愛教大との連携はこれまで以上に重要で、今日の会議を有効なものにし、より一層学校現場を支えていただくことをお

願いたい」と述べた。

このあと、現職教員の研修、地域連携事業、教員養成についての議事に入り、それぞれの現況報告と今後の展開が話し合われた。今年の教員採用試験の合格率が6割を切った理由を問われると、都築理事からは「1年の初期からセミナーを開いたり、3年で面接の練習をするなどしてきたが、さらなる強化に向けて新たな取り組みをしていきたい」と述べ、来年度から「キャリア支援センター」として支援強化する準備中であることを説明した。

他にも教育現場への学生ボランティアの派遣、来年開設される静岡大学との共同大学院博士課程などについて、さまざまな意見交換がなされ、2時間の会議は終了した。

### 交通安全講習会(12/21)

2011年度の交通安全講習会が12月21日(水)午後1時30分から講堂で行われた。全学生が対象で、学部学生には学内駐車場の入庫許可発行の要件として課されている。今年度は約850人が参加した。

冒頭、学生担当の都築繁幸理事が「車を運転するものの責任として、交通安全のルールを守り、事故の加害者にならないよう講習をします。交通安全についてしっかり学んでください」とあいさつした。



前半は、一般道路での交通安全について、刈谷警察署交通課総務係の市川剛さんが講演。急増



する自転車での交通事故の事例や、刈谷市内での人身事故件数、事故防止のため「危険管理・脳トレーニング」などについて話した。

「止まってくれるだろうと思わず自転車や歩行者が出てくるかもと、危険予知をしてください」などと参加者に呼び掛けた。

後半は、中日本高速道路名古屋支社羽島保全サービスセンター所長の岩竹喜久磨さんが高速道路での交通安全マナーについて講演。高速道路での事故状況をはじめ、乗車前の点検やマナーとルールを守ることの大切さなどを訴えた。



### 音楽科学内演奏会(12/21)



音楽科の学生による学内演奏会が12月21日(水)午後4時から音楽棟演奏室で開催された。

毎年この時期に行われる恒例行事で、学生が主体となって企画運営している。今年も1年～4年、大学院生や教員までが出演し、合唱、

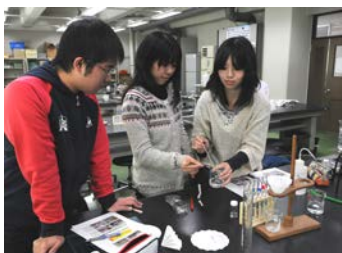
ピアノやフルート、チェロなどの楽器演奏、オペレッタの上演など、23のプログラムが上演された。声楽アンサンブルでは「ふるさと四季」と題して、「ふるさと」「春の小川」「早春賦」などをアレンジし、澄んだ声で日本の四季を歌い上げた。大学院生によるオペレッタ「魔女が忘れた三つの伝言」は、台本から、音楽、演出、舞台の道具までを準備し、楽しい舞台を披露した。最後は4年生一同で「虹」「ジョイフル ジョイフル」「サライ」を合唱し、演奏会を終了した。



### 理科実験プレ教員セミナー(12/28)

教員の理科離れに歯止めをかけたい、と本学が開催している「理科実験プレ教員セミナー」(参加無料)が12月28日(水)、本学自然科学棟で開催され、中部日本放送(CBC)が取材した。今回が6回目で「このまま教員になって大丈夫?」と学生らに呼びかけていた。

この日は教員採用試験に合格した4年生をはじめ、大学院生を含めて計15人ほどが参加し、理科教育の教員が実験について特別講義を行った。化学実験(化学薬品と実験器具の取り扱い、日野和之准教授)、生物実験講座(顕微鏡の扱い方と生物の観察、澤正実教授)、物理実験(電気・伝播の働きとその利用、岩山勉教授)、地学実験(月と太陽、澤武文教授)で各2時間実施。



化学では小学校5年生の実験「食塩を溶かしたときの液の重さ」や、ミョウバンの水溶液の濾過、二酸化炭素で火を消す実験などが行われ、学生はそれぞれの試験管を手に実験を続けた。生物では電子顕微鏡の扱い方を実際に操作し、ピントを合わせる練習をした後、カブラハバチの卵を注視、幼虫の原型の鮮明な像を確認していた。テレビカメラが教室を移動したが、学生は真剣な表情で貴重な体験に目を輝かせていた。

取材に、教員採用試験に合格した初等国語の4年生は「あと3カ月でどこまで準備ができるか不安だったが、化学の実験は参考になりました」「教員になってすぐ理科を教えると言われたら困るが、わくわくする実験を体験して成果は出せると思います」と答えていた。



コーディネーター役の岩山教授は「理科そのものに関わりを持たない、中学生レベルで理科の知識が止まったままの学生もいる。将来、学校で子どもから理科の質問をされて、上手に指導できない教員を少しでも減らしたい。国立大学として他大学の教員志望の学生にも門戸を開けて続けていきたい」と話していた。



## お知らせ・報告・投稿

### 造形文化コースでお茶会(報告)

造形文化コースで陶芸を専攻する学生たちによるユニークな授業が11月23日(水)午後に行われた。

この授業は、陶芸を学ぶ中島晴美研究室の4年生が中心になって企画。前期の課題「湯呑み100個を作る」で制作した茶碗を通して、「陶芸の造形を考える」のが狙い。2部構成で、第1部は器を中心に自身の制作について「作家の思い」を語り、第2部はそれぞれが制作した器で茶会を開くという趣向。卒業生らに声を掛けて準備を進め、当日は3年生から大学院生、卒業生、中島教授の教え子の作家など約40人が参加。

第1部では作家や卒業生など12人が、各15分ずつ、造形への思いを語った。卒業生で、現在は栃木県那須町の作家活動を始め、陶芸教室でも教える安藤麻衣子さんは、「中島先生に出会うまで、陶芸は器だと当たり前だと思っていて、造形があることを知らなかった。自分の好きな形が作れる。自分を織り込めるような作品をつくりたい」とスライドで自作を紹介しながら話した。佐々木雅浩准教授はガラス造形の観点から造形を「単に機能でなく、自分をどう織り込んでいくか。それは素材に対して僕自身にどういう思いがあるかです」などと、作家として造形への姿勢を語った。



第2部のお茶会では、参加者が持ち寄った茶碗で茶道部が呈茶。アトラダムにお茶碗が出されて、目の前の茶碗を持ち帰るといった交換会を兼ねたもの。まるで羽が生えたような茶碗があったり、たくさんのひだが付いた茶碗があったりと、どれも個性ある作品がずらりと並んで、参加者同士の話が弾んだ。特別参加した松田正久学長は「今日のキーワードをメモして気付いたのは『自己満足は必要』『こだわり』。基礎を大切にいくら築いても、(発展的に)崩れる。僕の作ったお茶碗を何かに見立ててくれればいいが、それだけに頼ってはいけないということをお知らせされた」と感想を述べた。

実行委員長の於保周(おほ・あまね)さん(造形コース4年)は、「本当は器について、自由に発言できる場として意見交換の形にしたかったのですが、解説になってしまったのは反省ですが、お茶会は器を手に話ができて楽しい時間でした。作家さんたちに作り手の思いを話してもらって、いい刺激になりました」と授業を振り返った。



### 卒業生近藤友貴さんが震災の写真展示(報告)

本学卒業生の近藤友貴さん(名古屋市西区在住)が、東日本大震災の津波の傷跡が残る写真3369枚を壁一面に並べた展示会「痕(あと)―東日本津波が残っていたもの〜カヘルコトノデキナイ写真たち」を12月14日(水)〜18日(日)、知立市文化会館「パティオ池鯉鮒」ギャラリーで開催した。

近藤さんは本学で美術を専攻し彫刻研究室で学び、今年3月に卒業。現代アートを学ぼうとイギリス留学準備中に、知人から誘われて震災被災地のボランティアに8月～11月に毎月1週間ずつ参加した。いくつかの作業のうちの一つが、宮城県気仙沼市での写真洗浄作業だった。そこで洗浄しても被写体が分からなくなり、持ち主の元に戻ることがなくなった大量の写真に出合った。「行き場のなくなった写真で、自分なりに何かを伝えられないか」とそれらの写真をボランティア団体から借り受け、写真展を企画した。



写真はわずかに被写体が残るものもあるが、大半は判別不能。写真展はテレビや新聞で紹介されたこともあって、会場には年齢も様々な人々が訪れた。そんな中で近藤さんの思いも変化した。「アート視点から震災を訴えたいと考えたが、周囲からの批判もあった。このやり方でよかったかと迷いも。もっと自分のなかでゆるぎないものにして、周到に準備すべきだった」と課題も膨らんできたという。苦悩しながらの展覧会だったが「それでもこれを見て涙を流す人がいたり、そういう見方もあったかと教えられたりで、勉強になった。見てくれる人に救われた」という。岐阜市から訪れた女性は「気仙沼は出身地です。この展示があると聞いて、いてもたってもいられなかった。被災地のことを忘れないでほしい。こうやって展示をしてくれることがありがたかった」と目に涙を浮かべた。

複雑な思いを抱えながらも、これを機会に写真への興味が膨らんだという近藤さん。今回の展示会を通して、多くのことを学び、課題も見えてきた様子。来年2月からはイギリスで語学研修を経て、審査がパスすれば、10月からは念願の大学院で現代アートの勉強に専念することになる。

### 個人情報保護・情報セキュリティセミナー(12/13)

「個人情報保護・情報セキュリティセミナー」が、12月13日(火)午後1時30分から本棟第五会議室で開催され、他大学の職員も含め、教職員と学生約70人が参加し、熱心に聞き入った。

同セミナーは、個人情報保護・情報セキュリティに関する正しい知識を習得し、その取り扱いの重要性についての意識向上を図るのが目的。講師には、長年本学の非常勤講師を務め、本学の事情もよくご存じである(有)情報空間代表取締役の榎本康宏氏を迎え、「セキュリティしてますか?ー基本的考え方と最低限の対策ー」をテーマに、セキュリティに関する基本的考え方、情報漏えいやセキュリティ対策について講演していただいた。

榎本氏はマーフィの法則を取り上げ、「確率がゼロでなければ必ず起き



る」との経験則から、「無くしてはいけないファイルを入れた時に限ってUSBメモリを紛失する」という例などを上げ、ユニークな内容を交えながら分かりやすく説明した。最後に、「セキュリティしてますか?」を標語としてパソコンの画面など身近なところに張ると、セキュリティに対する気づきになると提言して講演を終えた。

(情報図書課情報化推進室長 伊藤秀夫)



### 催しもの案内

◆愛知教育大学天文台「第69回一般公開」

1月7日(土) 16:30~19:30 入場無料、事前申し込み不要

自然科学党 5 階・地学 538 教室  
16:30~17:00 講座の前の金星観望会  
17:00~18:00 天文ミニ講座「暦に隠されたヒミツ」 講師：澤武文教授  
18:00~19:30 観望会「木星観望会」  
3D 宇宙映像上映会  
(雨天の場合も講座、3D 上映は実施)  
詳細は天文台 HP を参照 <http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>  
問い合わせ：理科教育講座天文学研究室 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 2 4

- ◆「環境緩急と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」プロジェクト  
第 1 回特別講座  
1 月 11 日 (水) 13:30~15:30 参加無料、事前申し込み不要  
第二共通棟 421 大講義室  
講師：木村真三氏 (獨協医科大学国際免疫学研究室福島分室長・准教授)  
演題：原発事故と私たちの環境・健康～チェルノブイリ・福島から考える～  
対象：本学教職員・学生、一般  
問い合わせ：保健環境センター 榊原洋子  
TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 3 6 8  
sakakibara@aecc.aichi-edu.ac.jp

- ◆第 100 回劇団把° 夢新春公演  
「監視カメラが忘れたアリア」 (作：鴻上尚史、演出：田邊充司)  
1 月 14 日 (土) ①14:00~ ②18:00~  
15 日 (日) ①11:00~ ②14:30~  
七ツ寺共同スタジオ (名古屋市中区大須 2-27-20)  
料金：前売り・予約 500 円、当日 800 円  
詳細は HP を参照 <http://www.geocities.jp/gekidanpamu/>  
問い合わせ：イトウ TEL 0 8 0 ・ 5 1 1 9 ・ 3 7 2 9

## 編集後記

年内最終のニュースを発行しました。12 月後半に行われて寄稿をお願いした催しは、編集が間に合わなかったため、次号で掲載します。それにしても、1 年があつという間。皆さんにとってどんな年だったでしょう。広報室では、昨年と比べて、ニュース件数が増えたり、学生さんたちの受賞の報告が多くなったりと、忙しさの中にも仕事のやりがいもありました。また、東日本大震災という未曾有の災害に、翻弄された年でもありました。さて、2012 年はどんな年になるでしょう。うれしいニュースをたくさん発信できる 1 年であるよう、広報室スタッフ一同、願っています。どうぞ、皆さんもよい年をお迎えください。(K)

## 投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者:総務担当理事 折出 健二